

「ウシモツゴの保全」事業報告書

平成 18 年度野生動物保護募金の助成を受けた「ウシモツゴの保全事業」の実施結果は次のとおり報告します。

岐阜・美濃生態系研究会
会長 三輪 芳明

はじめに

ウシモツゴ *Pseudorasbora pumila subsp.* は東海地方固有のコイ科に属する魚類である。

本来、ウシモツゴは水田の用排水路や溜め池等に生息していた。しかし、生態系に配慮を欠いた、圃場整備や川底までコンクリート化した河川改修を行った結果、河川や用排水路にはウシモツゴが棲息可能な環境はなくなってしまった。

そのため、【環境省のレッドデータブック絶滅危惧種 I A 類 (CR)、岐阜県レッドデータブック絶滅危惧種 I 類、愛知県レッドデータブック絶滅危惧種 I A 類 (CR)、三重県レッドデータブック絶滅危惧種 I 類】に規定されている。

岐阜県では、県希少野生生物保護条例に基づき生きている個体を捕獲、採取、殺傷又は損傷することを禁止している。岐阜県内におけるウシモツゴの生息地は非常に少なく、養老地区には以前は生息していたようだが現在は絶滅している。

私たち岐阜・美濃生態系研究会は関市産、美濃市産ウシモツゴを 2005 年から岐阜県指定希少野生生物捕獲等の許可申請、同飼育許可申請を提出、許可を得て調査している。

岐阜・美濃生態系研究会では、関市産のウシモツゴを約 25 年ほど前から飼育繁殖している個人を知り、この個人の飼育現場と個体群を岐阜県環境省生活部地球環境化に「県希少野生生物保護条例前個体群」と確認していただきました。

その繁殖個体を使用して 2003 年からウシモツゴの飼育繁殖に着手した。その後、2005 年には岐阜県世界淡水魚園水族館、岐阜県河川環境研究所、岐阜県博物館、関市役所生活環境課、美濃市役所生活自然環境課とともに民官学の協働体制（ウシモツゴを守る会）を組織し、保全活動を行ってきた。本報告書では、そうした経緯を踏まえて行われた 2006 年度における事業の内容と成果について報告する。

事業内容

①ウシモツゴの自然生息個体数推定調査

2006 年 8 月

②ウシモツゴの種親交換会

2006 年 4 月

③ウシモツゴの飼育繁殖

2006 年 5 月

④昨年度ウシモツゴ放流後のモニタリング

2005 年度より開始、本事業期間中も各池月 1 回継続

⑤本年度野生復帰候補池の選定

2006 年 8 月

⑥放流予定の外来魚の駆除

2006年10月

⑦本年度ウシモツゴ繁殖個体の放流

2006年11月

⑧ウシモツゴを通じての環境教育

2006年5月～2007年1月

ウシモツゴを通じて環境教育(A池ウシモツゴ観察会)

5月後半には池のふちに無数の稚魚が確認できた為に6月10日に小学生を中心とした地元住民を招きウシモツゴとその生態を理解してもらう為にウシモツゴの観察会を開催した。池のふちに無数のウシモツゴの稚魚が泳いでいる姿をみてもらい、関市A池でのウシモツゴの自然繁殖が順調に行われていることを確認してもらった。

今後の目標

原則として関市産のウシモツゴと美濃市産のウシモツゴの交雑は避け、また、野生生息域周辺以外に持ち出さないことを前提に今後も継続して活動して行く予定である。今までの活動結果として関市や美濃市において、ウシモツゴの復元生息池や観察池の確保を目標に活動していく。放流後1年目は毎月の月例調査及び繁殖確認、2年目以降は定着状況の確認を行うためにモニタリング調査を続けると共に、危険分散の意味も含め関市、美濃市の各小学校でのウシモツゴ飼育を通じての郷土の自然環境教育に努めたい。

収支報告関係

玉網、ケースなど各種用品、試薬、など購入費 30万円
(領収書など省略)